

アイデア募集に寄せられたアイデア及び市の考え方

No.	応募者 No.	アイデア	分類	市の考え方
1	7	スパーシティ構想やIT化は将来性を考えると不可欠なものかもしれませんが、高齢者や弱者が取り残されるシステムになってしまっては逆効果と考えます。	SDGs共生みらい 都市	平成30 年（2018 年）6 月に鎌倉市は、国から「SDGs 未来都市」に選定されました。鎌倉市では、これまで目指してきた持続可能な都市経営の考えと方向性を同じくするSDGs の理念に基づき、誰一人取り残さない社会の実現に向け、経済・社会・環境をめぐる広範な課題に統合的に取り組んでいます。深沢地区のまちづくりでは、SDGs の理念に基づき、誰一人取り残さないまちづくりの在り方を発信するとともに、誰もが互いに多様性を認め合い、生涯にわたり、自分らしく安心して暮らすことができる「共生社会」のまちづくりを実現したいと考えています。また、深沢が目指すSDGs共生みらい都市の実現に向けては、人にやさしいテクノロジーの活用によって本市が抱える社会課題を解決を目指す、スマートシティの考え方を取り入れます。
2	10	駅近くに建設する3 階建ての駐輪場の中に福祉事務所をかまえ、駐輪場の収益で、生理用品の無料配布を行うなど、女性にやさしいまちを目指す。		
3	13	「ウェルネス」を実現するため互恵共栄の理念を掲げる。		
4	14	SDG s 未来都市に向けて ・鎌倉市は既に「SDGs未来都市」に選定されているが、地域が自立して環境、社会、経済の3側面からの価値を創造する「自律的好循環」が期待されるので、深沢地区の開発では是非とも実現を目指すこと。 ・鎌倉らしさとして、緑豊かなまちづくりと持続可能な都市経営『SDGs未来都市かまくら』の創造をめざしており、歴史遺産を守りながら、経済、社会、環境のバランスがとれたまちづくりに取り組んでほしい。		
5	7	24時間セキュリティーはITに委ねられる事が可能と考えます。夜間や深夜であっても活気と賑わいがある安全な空間があっても良い。	スマートシティ	鎌倉市では、先端技術やデータを活用し、共生社会の構築をけん引していきたいと考えています。既成市街地におけるスマート化の取組の成果を、深沢地区のまちづくりのフィールドに集約します。そして深沢を実証フィールドとして、さらに磨き上げた最適な取組事例を全市的にフィードバックすることを想定しています。 AI やIoT、環境に配慮した最先端の交通手段、スマートエネルギー（環境負荷の少ないエネルギー）など、日常生活に寄り添う最新テクノロジーを活用することにより、生活の質の向上と安全安心なくらしの実現を目指しています。
6	11	オフィス空間等の快適性・知的生産性向上による「スマートウェルネス」の構築、働く人・住む人向けの「QOL向上サービス」提供（睡眠分野・食分野のサポート）		
7	14	スーパシティ構想の実現 ・デジタル技術で都市機能や暮らしを向上させるスマートシティを展開することにより新たな価値観を創出してほしい。		

No.	応募者 No.	アイデア	分類	市の考え方
8	3	建ぺい率容積率は、町全体のルールとして定め、安全かつ密集住宅地にならないように。	ウォーカブル	深沢地区のまちづくりでは、健康づくりやスポーツなど「ウェルネス」のまちづくりを実現する第1歩として「歩く」ことに着目し、居心地が良く歩きたくなるウォーカブルなまちを目指しています。 大規模街区においては、街区内の回遊性及び歩行者の利便性を向上するため、街区内に通り抜け可能な歩行空間やポケットパークの整備に努めるとともに、ウォーカブルなまちを実現するため、歩道等の緑化及び無電柱化等の手法を活用し、沿道建築物との連続性に配慮し、快適で賑わいのある歩行空間の形成を図ります。
9	1	ショッピングセンター上層の遊歩道。屋根なし、店あり。店舗の中なのに外のよう。車・自転車の来ない安全なスペース。犬と散歩、ウォーキング、ベンチ。（ハワイアラモアナショッピングセンター）		
10	2	「ウォーカブルなまち」実現のための富士山の眺望確保。「富士山を眺めながら歩きたくなるエリア」		
11	14	・景観面では、電柱・電線の地下埋設化が大前提。		
12	1	小中学生が安心してボール遊びをできる広場。本格的な球場等設備でなく、近所の子供たちが声かけあって遊んだり、お父さんとキャッチボールをしたり、のびのびとできるスペース。	スポーツ	深沢地区のまちづくりでは、地域が有する自然環境等を活かし、ウォーカブルな空間を整備することで、健康づくりや誰もが気軽にスポーツに親しめる環境を整え、賑わい、交流、コミュニティの創出を促すとともに、神奈川県ヘルスケア・ニューフロンティア政策等との連携を図ることで、人々のこころとからだ健康になり、笑顔があふれるまちづくりを目指します。 また、多目的に使える公園や緑の原っぱの整備のほか、総合体育館、グラウンド等の整備により、「健康な心身を維持・発展させる生活活動」といったウェルネスに資するとともに、その他の公共公益施設（公園等）と連携することにより、賑わいや交流の創出を図ることとしています。
13	5	深沢地区を「駒沢公園」のようなスポーツ文化の発信地・市民の憩いの場としてほしい。（スポーツ競技施設、公園、スーパー銭湯）		
14	7	陸上競技公式グラウンド、サッカー場兼用は是非設置していただきたい、サブトラック、グラウンドがあればさらに素晴らしい。私の息子たちは陸上競技部にいましたが鎌倉市内の記録会でさえ藤沢、横須賀のグラウンドまで行く必要がありました。高校野球予選が出来るぐらいの野球場は鎌倉市には実現不可能なのでしょうか、情けないですね。市から優秀なアスリートやメダリストが出現することは市民の喜びです。		

No.	応募者 No.	アイデア	分類	市の考え方
15	7	若手起業家のインキュベーション(時限であるけれども安価に使えるスペース)空間も有用と考えます。	イノベーション	深沢地区のまちづくりでは、保健・医療福祉関連機能等の導入により、市民のための拠点として整備していきたいと考えています。また、この地区周辺に高度な技術を有する企業の研究拠点やオープンイノベーションの拠点等が立地しており、ＪＲ東日本東海道本線の新駅設置など交通結節点としてポテンシャルを有する深沢地区の特徴、豊かな自然環境や人材を有する鎌倉の特徴を活かし、人々の交流を促すとともに、社会環境の変化や技術革新等にも柔軟に対応することでイノベーションを起こし、新たな価値、産業、技術を生み出すまちづくりを目指しています。
16	7	感染症対策が国レベルでも市レベルでも不十分であることが露呈されました。保健所拡大や誘致・休日医療センターは配慮されているのでしょうか。幸い近傍に大きな病院があるので、そことの連携を持った鎌倉市にしかできない先端医療補完施設こそウェルネス推進の原動力になると考えます。		
17	14	・自動運転車の運行やロボット・ドローンによる店舗への自動配送・遠隔診療などのサービス提供により高齢化社会や人手不足の解決など、物流、医療、教育などあらゆる分野の先端技術を組み合わせ、その相乗効果で住みやすいまちをめざす。 ・近隣の「湘南ヘルスイノベーションパーク（武田薬品工業）」や湘南鎌倉総合病院との連携と道路の整備や交通システムなどによりアクセス向上に努める。 ・個人情報の保護を徹底して、鎌倉版の「ＩＴのまち」のモデルづくりに期待している。		

No.	応募者 No.	アイデア	分類	市の考え方
18	3	大型施設を作る場合は、環境アセスメントを受け、エリア内でブレンドインするような構造に。	環境	深沢地区のまちづくりでは、鎌倉の豊かな自然や歴史・文化、鎌倉市民のシビックプライドを背景に、自然環境・グリーンインフラに配慮し低炭素社会の実現などを目指しています。省エネルギー及び再生可能エネルギーの活用など、脱炭素の都市づくりに資する、環境性能の高い技術を活用するなど、環境配慮型の建築を行うとともに、次世代交通手段など、脱炭素に資するテクノロジーを積極的に導入することを目指しています。
19	14	・まちづくりの基本方針として「エコロジーの象徴」にしていくことを願う。		
20	14	・環境省「脱炭素イノベーションによる地域循環共生圏構築事業」に申請し、脱炭素地域交通モデルの構築の採択事業をめざす。		
21	14	・再エネで充電したEVのカーシェアリングを実施 ・再エネを利用した交通手段で点在する地域資源を新たにつなげ、地域が抱える地域課題の解決を目指す。		
22	14	・新庁舎をはじめ各地にE V及び充放電器を設置し、上記エネルギーマネジメントの要素を組み込んだ、E V特化型カーシェアリングを地域に展開。		
23	14	脱炭素都市をめざして ・鎌倉市は、ゼロカーボンシティに取り組むことを表明しており、国内でゼロカーボンシティを既の実現したケースは、市有施設から排出される二酸化炭素について、市が保有するクレジットを活用して「カーボンオフセット」をすることで、実質ゼロとしている。対象とする温室効果ガス排出量に対し、目標設定型排出量取引制度において、省エネ等によって創出された二酸化炭素排出の超過削減量（クレジット）で埋め合わせることも加味する。		
24	14	・電気自動車および燃料電池車のカーシェアリング（共用）、自動宅配車、無人運転シャトルバス運行、無信号機、無人充電・水素ステーションの設置など、モビリティの近未来社会づくりにチャレンジしてほしい。		

No.	応募者 No.	アイデア	分類	市の考え方
25	3	現在の流鏝馬の練習場も 一般の人たちに見学、または利用できるように整備する。練習場周辺に市民農園設置など、循環型経済社会、持続可能なまちとしての運営。	エリアマネジメント	深沢地区のまちづくりでは、目指すまちの姿を実現するため、このまちに住む人、このまちで働く人をはじめとした幅広い多様な主体が協働して、持続可能なまちの運営に携わっていく必要があると考えています。 そのため、これまでの「つくる」だけのまちづくりから、「つくり、そして育てる」まちづくりへの転換を果たすため、地域の価値を高める「エリアマネジメント」の導入を目指しています。 自由で多様性に富んだ活動を支援し、多様な主体の参画を促すとともに、持続的なマネジメントを可能とする組織、収益の望ましいあり方を設計し、まちも人もエリアマネジメントも、共に成長する未来を目指しています。
26	5	できあがるまでの時間も有効活用してほしい。		
27	10	湘南モノレール湘南深沢駅周辺の駐輪場を整備して有料化する。駅近くに、3階建ての建物（駐輪場（2,000台収容））を建設し、収益を有効活用する。		
28	13	長期のプロジェクトであるので、環境問題やまちづくりに関心のある若者に参加を願い、積極的な提案や意見集約の活動に参加してもらうと良い考える。組織を超えた若者の交流や意見は貴重であり、近隣大学や高校のサークル活動としても継続的な参加を呼び掛けることは理念の伝承を行い、教育効果も大きい。若者の参加はアドバイザーはじめ多くの智恵を具体化する活動を継続的に長期に行うことが可能になる。		
29	16	将来像を支えるエリアマネジメントの中に書かれた「多様な主体の参画」について、これから深沢を創る子供達と一緒に、深沢のまちづくりとまちの運営を描く取組を組み入れてほしい。 エリアマネジメントの中に子供達の参画という視点をぜひ組み入れてほしい。市庁舎完成予定の2028年まで7年。そこから深沢のまちが変わっていくスケジュールにおいて、今深沢にいる子供達は、まちを離れたとしても、自分たちが主役となって活躍する舞台としての深沢に戻ってくる、ガイドラインを基に思い描いた深沢では、どんな「未来の自分」が活躍しているのか、夢にあふれた魅力あるまちを考えることが必要だと思う。 小学生でも理解できる絵本や動画（アニメ）によるガイドラインを作成し、深沢にいる子供達と共にまちを散策・ガイドライン策定委員会の有識者や企業のお話を聞く等、ガイドラインを理解するワークショップを開く。また未来の自分たちが活躍する深沢を模型に落とし込むなど、深沢の子供達が活躍する姿を見せることで、深沢に移住してきた家族が、自分たちの子供をまちづくりに参加させる、そんな有機的な循環も期待できる。 子供達の希望する未来へのキャリアパスを“ウォークアブル”にすることが、空間だけでなく時間も扱うガイドラインの大きな役割である。		

No.	応募者 No.	アイデア	分類	市の考え方
30	3	子どもたちが自然（土や生き物）と近い存在となる。	グリーンインフラ	深沢地区は豊かな緑地を背景としており、鎌倉市緑の基本計画では、新しいまちづくりと連携して、新たなみどりを創出していくべき区域として位置づけています。 深沢地区のまちづくりでは、多目的に使える公園や緑の原っぱの整備のほか、まち全体で「生き物を育む緑」、「暮らしを支え豊かにする緑」などの緑が持つ機能を引き出す緑のネットワークや水辺空間などを整備します。
31	7	地上緑化の確保及び壁面と屋上緑化の推進を期待します。東海道線車窓からも周囲の山々と一体となった緑景観は鎌倉の良さを発揮できるものです。車窓からの鎌倉の風景はM電機製作所の工場群しか見えません、これを打ち消す強い緑イメージを実現させたい。広町緑地保存を実現した市民の情熱を忘れてはいけません。		
32	7	調整池は親水公園・サンクンガーデンのビオトープがのぞましい。特に幼少時から水になじめる自然教育の場は有用と考えます。		
33	14	環境共生のまちづくり ・深沢の新しいまち並みは、樹木や植栽を多く植えて、緑地を整備した「グリーンタウン」をめざす。		
34	2	建物の高さ制限の設定による、湘南深沢駅からの富士山眺望確保、反対にまちからのモノレール眺望確保。	景観	深沢地区のまちづくりでは、地区全体としてのまち並み形成を尊重し、建築物の高さをゆるやかに調和させる等、周辺建築物や地区外のまち並みと調和を図るとともに、地区周辺への環境に配慮するため、建築物等は整ったスカイライン（連なる建築物等の頂上の輪郭）を形成することとしています。 また、道路、公園などの公共施設、建築物等の素材や色彩等の調和を図り、統一感のあるデザインとすることで、まち並みの一体性を創出します。
35	3	「100年後も美しいまち」 富士の景観や星空、海風の道（鳥の通り道）、地下水や丘陵の方角などを考慮し、全体的に芸術性をもった 鎌倉市の一員としてふさわしい（テクノロジーを意識しすぎた外観ートヨタの実験都市や品川駅周辺のような殺伐とした風景ではなく）、世界から一番訪れたいと評されるぐらいの緑と空のバランス、歴史と文化のまち。		
36	7	建物外観は古都をイメージさせる和風のデザインとする、中低層は木造であっても良い、高層住宅にあってもバルコニーや勾配屋根形状で表現出来ると考えられる。地中ケーブル化は当然と考えるが街路灯・手摺等工作物に和風は反映可能。都心の無機質なインターナショナルデザインはここでは全く不要、それらに対するアンチテーゼを鎌倉が主張する。		

No.	応募者 No.	アイデア	分類	市の考え方
37	1	横浜のような高齢者向け交通機関定額乗り放題サービス。	交通	深沢地区のまちづくりでは、健康づくりやスポーツなど「ウェルネス」のまちづくりを実現する第1歩として「歩く」ことに着目し、居心地が良く歩きたくなるウォーカブルなまちを目指しています。また、地区内外の円滑な交通処理への対応等を視野に入れ、地区外周の道路を拡幅するなどの道路整備を行うことで、安全で快適な歩行空間の創出を図ります。 既存バス網の再編に加え、東海道本線新駅と湘南モノレール湘南深沢駅間の2次交通導入の検討を行うなど、公共交通の利便性向上に努め、自動車に過度に依存しないまちづくりの実現を図ります。 さらに、次世代の交通手段や道路空間の有効活用に係る社会実験などの試行を通じて、地域との合意形成を図りながら、新たな交通手段の導入及びそれを支える基盤整備を行うことで、快適な移動手段の充実を図ります。
38	7	車には不便でも人車分離と歩行者動線優先としてほしい、市民マラソンコースがあっても良い。さらに言えば当街区全体が公園であっても良い。		
39	9	再開発に伴う人口動態の趨勢を踏まえ、公衆交通手段であるバス路線の見直しを行うとともに、それと組み合わせる形でラストマイルのモビリティサービスを実現してほしい。グリーンスローモビリティ（グリスロ）やMaaSによる移動支援サービスを、行政主導で或いは民間に対する支援で実現してほしい。		
40	15	○交通渋滞についての考慮 ・目 標：現状における当該地周辺の交通状況の悪化を最小限に抑える ・懸念点：鎌倉-藤沢間、大船-江ノ島間の各方面への通過トラヒックで既に通勤時間帯や土日、夏には134号線の込み合いとも連動して、渋滞が発生しており、そこに集客力のある大きな施設等を設けるとデッドロックが起きる。 ・解決方法：集客力の大きい大規模な店舗、施設が入らないようにする。また、域内に居住する者以外の車両は侵入できない等の交通規制を行う。		
41	3	歴史的専門家や土地の専門家を入れた、文化保存・温故知新の鎌倉の美を具現化しつつ、実際に人々が生活や商業を営めるまちの運営手法（IRのような大型統合リゾートでなく、個人・コミュニティ等共同体の観光及び生活圏の統合鎌倉テーマパーク風）	鎌倉らしい施設・空間の導入	令和2年3月に策定した「深沢地域整備事業の土地利用計画（案）」において、商業系土地利用の方針として、シンボル道路等に面する沿道商業・業務施設との連携や鎌倉の特性に配慮した、質の高い商業施設の導入を図ることを目指しています。古都鎌倉の歴史的文化的価値を継承しながら、鎌倉らしいまちづくりに取り組んでまいります。
42	7	鎌倉地産地消品(例えば鎌倉野菜)及び鎌倉工芸品等を集結した、道の駅鎌倉版を誘致したい。観光客、地元民に関わらず鎌倉の良さを満喫できる空間があれば当事業の価値が高まります。市役所に所用で来られる方々にもぶらりと寄れば何かの楽しみやメリットがあるものを期待します。		

No.	応募者 No.	アイデア	分類	市の考え方
43	7	オーディトリウムは大ホールが(小ホールも)芸術館にありますが、小ホール(600名~200名程度)はもっとあっても良いと考えます。芸能推進を求める地域の需要を飲み切れていない状況です。このホールに付属する練習場所も重要であります。私が所属する2つのコーラスグループは会場探しに明け暮れている現状です。芸術館予約が取れずに小学校体育館で発表会を行う場合は準備作業が倍増します。	行政施設の方針	令和2年3月に策定した「深沢地域整備事業の土地利用計画（案）」において、行政施設の土地利用の方針として、本庁舎、消防本部、総合体育館、グラウンド、公園が連携しながら、シビックエリアを形成し、複合的な行政サービスや市民活動の場を確保することにより、市民の利便性の向上、来街機会の誘発を図ることを目指しています。 市民の生涯学習、活動拠点の整備につきましては、市域の公共施設再編整備の中で最適化と充実を図ってまいります。
44	7	保育所・幼稚園の設置は予定されていると考えますが、経済力の無いシングルマザーや同様の子育てママ(パパ)のための新たな先進的な空間の試みがあっても良いのではないのでしょうか。市内子ども会館の閉鎖が多数行われていますが寂しい限りであります。	業務系土地利用の方針	深沢地区のまちづくりは、本市が目指す「安全・安心なまち」「子どもが育つまち」等を実現するとともに、公共施設の再編などの課題解決を図るものであり、本市の子育て施策の実装フィールドとしての活用も積極的に検討していきたいと考えています。
45	1	ショッピングモール（映画館、おしゃれ雑貨等コーナンとは違うもの）	商業施設	令和2年3月に策定した「深沢地域整備事業の土地利用計画（案）」において、商業系土地利用の方針として、シンボル道路等に面する沿道商業・業務施設との連携や鎌倉の特性に配慮した、質の高い商業施設の導入を図るとともに、新しく立地する商業施設と地域の商店会との連携・共生により、賑わいや交流を創出する機能の充実を図ることとしています。
46	7	商業施設は藤沢、横浜等にあるものの2番煎じは避けていただきたい、誘致企業の経済事情はあるにせよ、鎌倉にしかなくてかつ集客力のあるものが望ましいと考えます。「鎌倉シャツ」は有名です。私の市内知人で「世界的な宝飾デザインと制作」をやっておられる方がおられます、そのアンテナショップなんかがあれば良いと考えています。		
47	16	市庁舎が深沢に移転すると、飲食店を初めとした様々なお店も周辺にできると考えられます。 現在の深沢は「シャッター街」です。昔から愛された名店や、家族で楽しめた飲食店・レジャー施設などがどんどん無くなり、活気も薄れています。市庁舎の移転自体も、深沢の住人としては大歓迎ですが、それに加えて、市庁舎移転に伴う商業の活性化も明示していただけると、地元住民の理解が深まると思います。		

No.	応募者 No.	アイデア	分類	市の考え方
48	9	市庁舎、防災本部などの中枢部分が大災害時にも機能するように、ライフラインは地下埋設の共同溝で配備する。且つそれを近隣の重要施設に拡張していく。	防災	行政施設街区では、本庁舎、消防本部を中心に、総合体育館、公園等と連携することにより、防災拠点としての受援力等の機能の強化を図ることとしています。非常時においても防災拠点としての機能を維持するためには、持続可能なエネルギー供給基盤の整備が必須であると考えていますので、強固かつ環境性能の高い基盤整備を検討します。 また、地区内の建築物等は、耐震・免震構造、止水板の活用や、電源設備等の設置位置の工夫など、被災時においても被害を最小限にとどめ、速やかに復旧できる設計を施します。
49	11	コージェネレーションシステムなどを用いて、エリア内でのICTによる熱・電気エネルギーの調整を行うことで、環境配慮だけでなく、非常時のレジリエンス強化に貢献する「スマートエネルギーネットワーク」の構築		
50	11	災害時における影響を受けづらい都市ガスインフラを活用した非常用発電		
51	13	このまちづくり計画が、１００年後の都市開発のモデルとなるアイデアを提案する。それは、異常気象で都市インフラを見直さなければならない中で、行政区分を超えた柏尾川流域の防災を基本に置いたまちづくりを行い、安心安全なまちとするだけでなく、今後の街づくりのお手本になることである。災害が増えている現在将来の世代が安心して生活できる都市にすることが重要で、歴史を踏まえた鎌倉市のまちづくり計画はＳＤＧｓの世界のモデルとして世界から評価されることを期待している。行政区分を超えて、柏尾川流域思考で保水力を増やしたまちづくりを行うことが必要である。今回のような広域土地再開発では、柏尾川流域全体での計画を検討して、深沢まちづくり計画に織り込んで欲しい。４０haの大規模都市開発は１００年を見据えた長期的な計画とすることがＳＧＤｓ未来都市の鎌倉市の使命であり、行政区分を超えた計画は今後のモデルになると思う。このため国土交通省、神奈川県、横浜市、鎌倉市、藤沢市と連携して国土再生、地域創成のモデルとして、官民の投資を呼び、将来は大船、藤沢を超える伝統を踏襲する新しい文化の街を目指す都市ベースン・コミュニティを開発すると良いと考える。大規模な遊水池は公園や運動場そしてウオーカブルを実現すること更に防災の両方を実現する。		
52	14	・EVを「動く蓄電池」として活用。地域のエネルギー自給率向上、災害時の非常用電源として防災性向上。		
53	14	・災害時も電気と熱を100％供給することにより「環境性に優れ、災害に強いまちづくり」を目指すこと。		
54	16	「災害に強い防災拠点」について、現状では「合同防災訓練」と「遊水池」についてのみ触れられています。 JR跡地という広大な土地を、新しくできる建物で埋め尽くすのではなく、通常時は老若男女がゆったりと過ごせる憩いの場としての、広い公園もつくってほしい。		
55	16	その公園には、十分な数のトイレや、非常食、温水シャワーなどを備え、非常時の避難場所として、市民に認識してもらおう。深沢エリアの住人だけでなく、鎌倉市全域の人たちにとって「鎌倉の防災拠点といえば深沢」というイメージが定着できれば、非常時の市民の行動も変容するのではないのでしょうか。		

No.	応募者 No.	アイデア	分類	市の考え方
56	4	水害対策を図面と計算書で有効性を示してその賛否を問うていただきたい。それがない限り合理的な判断はできません。 したがって、今現在のアイデアは「この土地を田んぼにする」がいいアイデアだと思います。	水害対策	深沢地区のまちづくりにおける造成の考え方は、年超過確率1/100の計画規模の降雨を一つの基準とし、河川氾濫に対し、事業区域の全ての街区が浸水しないように造成高を定めることとしています。 また、地区内には雨水貯留施設として、特定都市河川である柏尾川流域で土地利用の改変に伴い求められる雨水貯留地約8,400トンの約3倍にあたる、約25,000トンの水量を貯留できる施設の確保を予定しており、内水氾濫に備え、周辺既存市街地や河川に対して負荷をかけることがないよう整備を行います。 なお、想定最大規模の降雨対策については、浸水予測など、事前の防災教育や減災の取組、さらに被災後の復旧を少しでも早めるための対策が講じられるよう、まちづくりガイドラインの策定段階から検討を行っていきたいと考えています。
57	15	○洪水発生時の周辺の浸水深への考慮 ・目 標：洪水発生時の周辺の浸水深を当該地開発前より増加させないこと ・懸念点：当該地には貯留池を設けることになっているが、同時に21万立米もの盛土も行う予定であるため、実質的な貯留量は198,000立米の減少で、周辺及び下流域の浸水深の増加となる。 ・解決方法：大規模な盛土は行わず、区域内での土の移動のみとし、大雨の際には雨水を一次的に貯留できるエリアを設け、浸水しても比較的簡単に復旧できる水辺公園等として利用する。		
58	15	○気候温暖化に対応した街の模索 ・目 標：気候温暖化の進展に合わせて撤退が可能なである事 ・懸念点：気候温暖化の進展による洪水被害の激甚化、頻度化により、度重なる水没により、建物の財産・価値が失われる事は容易に想定できる。また、相対的に危険度が高い水害ハザードエリアに居住・立地を求めることも考えにくい。そうなれば自治体のインフラ維持コストのみが残る。 ・解決方法：域内の店舗等は大型で恒久的なものの設置は極力避け、洪水被害の激甚化等に備えフレキシブルに撤退、再構築が可能な構造を義務付ける。現在の土地利用（暫定利用）のように短期間で、再度その場所を明け渡す事を前提とすれば、必要な時に新たな遊水地を開発し、地域の水害リスクを減らすことで周辺地域の価値を高めることができる。		

No.	応募者 No.	アイデア	分類	市の考え方
59	8	市民の関心は自分中心になりがちなので、全体像が分かるように検討の過程を目に見える形で示す。YouTube等は特に若者の関心を高められる。 都市計画決定の前に、小学校校区ごとに対話集会を開く。また、対話集会の前にイベントを行う。（例：行政代表と市議会与野党推薦の有識者３名程度の討論会を行う。またその討論会をインターネットでライブ放映する。）	情報発信	深沢地区のまちづくりに関する情報発信は、鎌倉市ホームページや、１年度に１～３回程度発行している「深沢まちづくりニュース」を、市役所及び行政センターの窓口で配架しているほか、近隣商店会や市内の全自治町内会での回覧などにより行っています。 現時点では、YouTube等動画を活用した発信や、都市計画決定前の対話集会などは予定していませんが、これからもあらゆる機会を捉えて情報発信に努め、合意形成に努めてまいります。
60	13	計画を実現するために強力なアドバイザーを迎えて情報発信を行って欲しい。 アドバイザーには鶴見川や三浦半島の小網代の環境保全活動に尽力した生物学者岸由二氏、鎌倉を愛する養老孟司東京大学名誉教授、元国土交通省河川局長の竹村公太郎氏にお願いして高い見地からのご意見を反映すると同時に流域思考の理解を広めてはどうか。多くの利害が絡む大規模まちづくりには、住民の意見が大切であることは言うまでもないが、説得力のある情報発信が難しいので、判り易い信頼のおける著名人の話は効果的である。		
61	3	「世界から深沢に行きたい」と言われるような美しい街は 開発地全体にかかっている。50年周期の再開発にしないような持続可能な街が昔の日本のようにゆっくりと渋みが出る景観が、子どもたちの原風景となるように、歴史と文化を伝えられるように、人づくりが継続し、シビックプライドが育つように、7世代先の子どもたちのことを考えられるようになるために、この土地を分割せずに、一つの共同体として、近隣のエリアとのつながりも強くなる運営手法が「深沢式」と言われるように、温故知新で100年後の子どもたちに感謝されるような「懐かしい」と言ってもらえる優しさが伝わる運営手法を新しく作らなければならないと考えます。	まちづくり全般	深沢地区のまちづくりでは、まちづくりのテーマ「ウェルネス」を実現するため、ウォークアブルなまちを目指す考え方を中心に据え、古都鎌倉に伝わる旧来からの「鎌倉らしさ」、深沢地域が大切に守り抜いてきた「深沢らしさ」に加え、新しい「鎌倉らしさ」につながる社会の潮流を受け止め、「まちの将来像３つの視点」として、「こころとからだの健康を育むまち」、「イノベーションを生み出すまち」、「あらゆる人と環境にやさしいまち」を定め、深沢のまちの未来を描くこととしています。 また、深沢地域整備事業は、鎌倉駅周辺、大船駅周辺に並ぶ第３の拠点として、さらに事業区域内の行政施設街区には本庁舎移転の方針も示しており、深沢地域のみならず、市域全体の持続可能なまちづくり（スマートでコンパクトなまちづくり）をけん引し、本市の潜在能力を高め、「働くまち鎌倉」、「住みたい・住み続けたいまち鎌倉」の創造を目指しています。
62	7	過去のガイドラインにあるビジョン、全世代に対応するウェルネス、緑と水を骨格、人にやさしいユニバーサルデザイン、障害者や子育て世代にやさしい場所、地域活性化に住み働き訪れる楽しいまち、CO2抑制環境配慮、防災性や防災拠点、賑わいと交流・みどりと歴史の環境を継承、鎌倉らしい文化・質の高いまち、100年間耐えられるまち、等は当然実現してほしい。		
63	8	基本方針のまちの将来像３つの視点は、深沢地区に限らず、市全体の将来像の視点に通じるものである。 鎌倉市全体との関連で深めてほしい。		
64	9	今回のまちづくりが、他地区の再開発の効果を実証するモデルという位置づけを強調することが必要である。		
65	13	まちづくりで最も大切なことは新しい人々がこの場所に住み続けたいくなるまちづくりであると思う。		

No.	応募者 No.	アイデア	分類	市の考え方
66	5	移転後の市役所跡地は、「上野公園」のように、芸術文化の発信地、観光情報発信、市民活動の場としてほしい。	その他	本庁舎の跡地については、市民サービスや相談のための窓口を残すとともに公共施設の再編と相まって、ホール、図書館、ミーティングスペースなど、市民の生涯学習、活動の拠点を整備することにより、生涯学習、芸術文化、市民活動、多世代交流などの拠点化を目指します。
67	6	事業用地全体が、浸水・洪水地域に指定されており、行政施行、都市区画整理事業を実施するのは不適切な用地である。また、独立行政法人都市再生機構に村岡地区と深沢地区を一体施行で委託するのであれば、環境アセスが係ることで事業期間が延びるなど、問題が多岐に亘ることから中止する。要望①個人施行 土地区画整理事業に変更、②組合施行 土地区画整理事業に変更、③その他として、湘南モノレールが廃線にならない整備事業を求める。また、個人施行か組合施行か決定してから、「深沢地区まちづくりガイドライン」の検討に向けたアイデア募集を実施する。本庁舎移転は、住民投票を実施して決定する。		洪水浸水をはじめとした深沢地区の災害対策については、深沢地区まちづくり方針実現化検討委員会の防災部会において、平成30年度から31年度にかけて、河川工学、地震学、地盤工学、都市震災軽減工学等、幅広い分野に関わる専門家による検証、検討を行い、ハード、ソフト両面からの対応をバランスよく講じることによって、深沢が、新しいまちづくりの地として十分な安全性とポテンシャルを有することを確認しています。 土地区画整理事業の施行につきましては、令和2年度に独立行政法人都市再生機構に施行要請を行っており、令和3年度の都市計画決定、令和4年度の事業計画認可を目指して事業を進めてまいります。 なお、市役所本庁舎の移転につきましては、平成29年度に策定した鎌倉市公的不動産利活用推進方針において、他の公的不動産の利活用やその効果等を含めた全市的な視点から、深沢地域整備事業用地の行政施設用地に移転することを決定しています。
68	12	土地利用の方針⑤公共施設の方針が導出される理由が不明である。シビックエリアの形成のために本庁舎等が必要であるなら、「シビックプライド」が発揮された鎌倉拠点から本庁舎を移せば、鎌倉拠点はシビックエリアではなくなるのか。そうでないなら、深沢への本庁舎移転は、ガイドライン上必須ではないと思う。本庁舎移転が必要であれば、市議会全会一致になるぐらい市民へ説明して欲しい。また、ガイドライン p 22のエリアマネジメントに、千代田区や柏市のイメージを前提とするのではなく、鎌倉市各地区の特性をよく分析して（案）を示すのが先だと思う。		市役所本庁舎の移転につきましては、平成29年度に策定した鎌倉市公的不動産利活用推進方針において、他の公的不動産の利活用やその効果等を含めた全市的な視点から、深沢地域整備事業用地の行政施設用地に移転することを決定しています。 エリアマネジメントについては、先進事例に学びながら、深沢地区のまちづくりに最適なものを検討してまいります。
69	13	今回深沢地区に加え、まちづくりのシンボルとも言える東海道線の新駅がある村岡地区と一緒に計画されていることは素晴らしいことだと思っている。新駅を構築することは魅力を何倍にも増やすことができ、新たに鎌倉、江の島の魅力を引き出し、研究・ビジネス・観光の拠点として発展できる素地があり、地域の価値を増やすことができる。将来は鎌倉や湘南地区の中心拠点になる可能性を持っています。		深沢地域整備事業は、鎌倉駅周辺、大船駅周辺に並ぶ第3の拠点整備を目指すものです。新駅設置を伴う藤沢市村岡地区との一体施行による土地区画整理事業の実施により、深沢地区のポテンシャルが高まるほか、企業誘致を加速させる効果が期待でき、「働くまち鎌倉」の実現にも資するものと考えています。さらに、新駅と深沢地区のまちづくりによる税収効果として、まちが建ち上がった時点で年額約16億円の増収を見込んでおり、これらの活用により、福祉、子育て、教育、自然災害対策、インフラマネジメントなど、鎌倉市全域に広くその効果を反映することもできると考えています。